

ITコーディネータ活用記

〈宮城県〉

5年間で維持管理経費2割減目指す「情報システム最適化計画」を推進 庁内のアドバイザー役にITコーディネータを起用

より効果的・効率的なIT投資を実現したい——。宮城県では、情報システムの全体最適化を推進する施策のひとつとして、県庁内のIT活用をサポートする「ITアドバイザー」を設置。常駐して情報システム導入に関する幅広い任務をこなす役目を、1人のITコーディネータが担っている。



宮城県 企画部情報政策課
システム最適化推進班班長 高橋道宏氏(写真左)
同 主査 仁木 尚氏(右)

また、本田氏は3月にいったん契約満了となったが、ITアドバイザーの継続設置が決まり、5月から再び情報政策課に常駐することになった。

計画に盛り込まれた施策の中でポイントになっているのは、システムの調達および開発に新たな基準を設けたことだ。具体的には、「宮城県情報システム調達ガイドライン」および「宮城県情報システム開発標準書」を作成し、情報システム所管課でシステム導入を進める際には、事業構想・予算要求・予算執行の3段階で審査・承認を受ける仕組みに変

宮城県では、ITの有効活用により早くから取り組み、着実に成果をあげてきた。平成15年度に広域LANサービスを利用した基幹ネットワーク「みやぎハイパーウェブ」(県全域では全国初)、平成17年度には電子県庁の実現に向けて「宮城県電子県庁共通基盤システム」の運用を開始し、これらのインフラを生かした県民向けサービスの充実、庁内業務の効率化を進めてきた。

しかし、情報システムの企画・開発、調達・運用には少なからず課題も残っていた。宮城県・企画部情報政策課システム最適化推進班の高橋道宏班長は、「多数の情報システムの中には機能が重複していたり、導入効果の検討や事後検証が不十分なものがありました。また、職員のITスキル不足から特定ベンダーへの依存や継続的な随意契約なども見られました」と説明する。

最適化計画の策定に向けて 民間のノウハウを活用

そのため宮城県では、平成19年度に、本県の所管するすべての情報システムを対象に効果的・効率的なI

更した。

宮城県・企画部情報政策課システム最適化推進班の仁木尚主査は、「各課の担当者は相当厳しい条件をクリアしなければならなくなりましたが、これを機に、システムは業務効率化やサービス向上といった効果を得るために活用するものだということを認識し、『真に業務に必要なシステムかどうか』をきちんと検討できるように努めてくれればと思います」と語る。

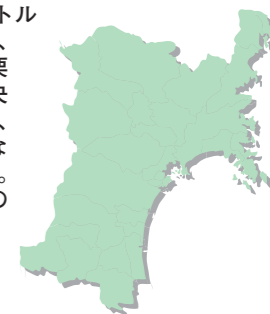
そのために、職員向けのスキルアップ研修にも力が入れられている。実は、その講師役も本田氏の重要な任務のひとつ。業務分析手法やRFPの作り方など、多種多様なテーマで研修を実施している。

ITアドバイザーは不可欠な存在 システム統廃合の推進にも期待

常駐期間がすでに2年半近くとなった本田氏は広く顔を知られるようになり、情報政策課に相談に訪れる各課の担当者からの信頼感も確実に高まっている。「本田氏が研修などで席を空けることも少なくないので、所在を真っ先に聞かれることもよく

宮城県プロフィール

- 人口: 234万814人 (2009年11月1日現在)
- 面積: 7285平方キロメートル
- 特徴: 東に太平洋を臨み、栗駒などの山々、中央部には仙台平野となる。調和のとれた豊かな自然環境を有する。近年、自動車産業の立地が進んでいる。



IT投資の実現を目的とした「宮城県情報システム最適化計画」を策定することになった。

策定にあたっては、民間のノウハウを活用するために、その業務を外部委託するとともに、県庁内に常駐して種々の相談に対応してくれる「ITアドバイザー」を設置することとした。

委託先の選定は、公募型企画提案方式により行われ、国や自治体向けのITコンサルティングで多数の実績を持つ会社を選ばれた。そして、「ITアドバイザー」はITコーディネ

ネータの資格を持つクロスキャット仙台支店の本田秀行氏が務め、平成19年8月から情報政策課に常駐することになった。

本田氏はまず、計画策定に関わる業務として、コンサルタント会社と共同で総計195に及ぶシステムの調査・分析を進め、最適化の方向性を導き出していった。

その一方で、庁内の各課で個別に行われている業務システムの企画・開発、調達、運用などの相談に乗り、仕様書作成やベンダーからの見積りに関するアドバイスも行った。

システム導入時の手順を大幅改訂 職員向けスキル研修も強化

「宮城県情報システム最適化計画」は平成21年2月16日に策定され、その具体的目標には、「既存情報システムの維持管理経費約24億円を平成25年度末までの5年間に20%削減する」ことが掲げられた。

同年4月には、効果的・効率的な情報システム開発を推進するため、「システム最適化推進班」が充足し、計画の実行フェーズがスタートした。

あります」と、仁木主査は言う。

高橋班長は、「私どもも技術的なことで相談に乗ってもらうことが多々あります。多岐にわたる業務で大変だと思うのですが、きっちり対応してくれるので本当に心強い存在です」と、本田氏への評価を口にする。

そして、忙しい毎日を送る本田氏自身も、「多種多様な自治体業務の全体を把握・分析してシステムの最適化に結び付けていく作業は大変ですが、ITコーディネータのスキルをフルに発揮できるので非常にやり甲斐があります」と語っている。

「宮城県情報システム最適化計画」が遂行されていく中で、今後、本田氏の果たす任務はさらに広く重いものになっていくだろう。高橋班長は、「計画の中では、コスト削減手段としてシステムの統廃合、さらに将来構想としてサーバー仮想化の検討にも取り組むことになっていきます。これを進めるには、部局間や各課での調整作業も必要になりますから、庁内の業務とシステムをすべて把握し、第三者の立場で最適な方策をアドバイスしてくれる本田氏の手腕に期待しています」と話している。

ITコーディネータ紹介



株式会社クロスキャット
仙台支店・システム事業部

ITコーディネータ
本田 秀行氏

大手ソフトウェアベンダー勤務時代にさまざまなシステム構築を手がけた経験と知識を下地に、ITコーディネータ資格を取得して「IT経営コンサルタント」としてステップアップした。

宮城県のITアドバイザー業務においては、「コスト削減の指南役」が重要な任務の1つになっているが、相談や研修の際にはよく「値段を下げることを目的とするのではなく、適正な価格でシステム構築・運用をすべき」と話しているそうだ。「例えばベンダーからの見積りについて相談を受けた時は、まず『この項目の明細を提出してもらってください』というような交渉の仕方に関するアドバイスをしています。そうすることで、職員の方々も『何にくらうかかのか』『値下げを求めるとは余地はあるのか』といったコスト感覚が養われていくはずですよ」とのことだ。